

チョイソコふそう実証運行の効果検証

【登録者アンケート】

- チョイソコふそうの登録者は「80歳以上」が約45%、65歳以上の高齢者では約86%を占めている。
- 登録者と利用者の年齢構成を比較すると、利用者の方が高齢者の割合が高い。
- 利用経験のある人は、運転免許を保有していない割合が高い。
- 実証実験の周知効果は広報によるものが高い一方、利用経験のある人では説明会を知るきっかけとする割合が高い。
- 利用経験のある人は、日常的な移動手段として会員登録をしている割合が高い。
- 月に数回以下の利用頻度の利用者と、週に1回以上利用する利用者が同程度の割合となっている。
- 利用目的では「通院・見舞い」が最も多く、次いで「買物」、「習い事」の順となっており、自由目的での利用が主体となっている。
- タクシーと併用して移動している利用者が多くみられるとともに、鉄道と併せて移動する利用者も多い。
- チョイソコふそうを利用した頻度の高い移動について、自分で運転する自家用車から利用を切り替えた利用者が約20%みられるとともに、新たに外出できるようになった利用者が12%みられる。
- 利用していない理由としては「自家用車を運転しているから」が多くを占めている。
- チョイソコふそうの満足度（「満足」＋「まあ満足」）は約52%で、不満割合（「不満」＋「やや不満」）の約4%を大きく上回っている。
- サービス項目別の満足度では9項目のうち、「運行日」だけが不満割合（約30%）が満足度（16%）上回っており、土曜日の運行を求める意見が多い。
- 登録者全体として「健康に関するイベント」を希望しているほか、利用経験のある人では「ランチ等、食事を伴うイベント」、利用経験のない人では「買物ができるイベント」を希望している。

【利用実態】

- 実験開始以降、利用経験者数は登録者の伸び率以上に増加している。
- アンケート結果同様、登録者と利用者の年齢構成を比較すると、利用者の方が高齢者の割合が高い。
- 令和4年11月以降、利用目標を連続で達成している。
- 午前中の予約件数が、全体の予約件数の7割以上を占める状態が続いている。
- 予約時期は「1時間未満」の割合が最も多いが、「1日以上前」や「2日以上前」の割合が増加している。
- 予約方法は「電話予約」が主体を占めるが、「インターネット予約」の割合が増加している。
- 乗合率は1.45となっており、実証実験期間中に大きな変動はない。
- 3回以上の予約を取ったことがある利用者は約57%となっている。

- 利用者が希望した時間から前後 10 分以内の予約として確定した割合は約 88%となっており、希望時間よりも後に変更して予約が成立している件数が多い。
- 利用の多い乗降場は「江南厚生病院」や「イオンモール扶桑」といった医療・商業施設となっているが、利用者 1 人当たりの利用回数では「森・中村公民館」や「南東川」といった住宅地が最も多くなっている。
- 午前中の前半は医療機関や駅の乗降場などの利用が多く、午後の後半からは商業施設や住宅地の乗降場の利用が多くなっている。

【利用者OD】

- 地域による移動の偏りは見られず、町全域でチョイソコふそうが利用されている。
- もっとも利用が多い江南厚生病院については、町全域の様々な停留所から利用されている。
- イオンモール扶桑については、町南部地域からの利用が中心となっている。
- 森・中村公民館は、ベビユーザーが様々な場所への移動に活用していると考えられる。
- 神尾外科は特定の停留所間の移動が多くなっている。
- 柏森駅北は町内全域の様々な停留所から利用されており、扶桑駅周辺からの利用も見られる。



【チョイソコふそう実証実験の評価】

- 新規利用経験者が増加している現状にあり、利用目標値を達成している
- 主に高齢者の自由目的での移動手段として定着しつつあり、タクシーを併用して移動している利用者が多くみられるとともに、鉄道端末としての利用も多くみられ、町内の公共交通のひとつとして機能している
- チョイソコふそうの運行によって行くことができるようになった外出目的が一定程度みられることから、外出促進の役割を果たしている
- 利用の増加に合わせて乗合率が上昇していない現状があるとともに、希望する乗車日・時間の 1 日以上前に予約する割合が増加しており、直近の予約が取りづらくなっていることが考えられる
- チョイソコを知ったきっかけとして、利用者では非利用者と比較して「町の説明会」の割合が高いことから、直接的に利用方法を案内する周知・PR活動により、利用が広がりやすくなることが考えられる
- 特定の停留所間の移動への偏りは見られず、町全域の移動に活用されている。

【実証運行の目的】 **効果確認**

- 外出しにくい高齢者に対し、新たな移動手段を確保することにより、積極的な外出を促すとともに、自身での自家用車の運転等の代替となり得るものであるか。
- 高齢者以外の町民に対しても、日常生活における移動の不便さを解消することが可能な移動手段として機能し得るものであるか。



令和5年10月より本格運行